

第 11 章 令和 2 年度鎌倉市役所の環境マネジメント報告書

鎌倉市では、環境省の策定した環境マネジメントシステムであるエコアクション 21 を参考に、市独自の参加登録制度「かまくらエコアクション 21」を設けました。

本報告は、鎌倉市役所が、鎌倉市内の事業所のひとつとして事務事業に伴う環境負荷を低減するため、この「かまくらエコアクション 21」に基づき、環境マネジメントに取り組んだ記録です。

1 鎌倉市役所概要

- 事業所名

鎌倉市役所

- 所在地(本庁舎)

鎌倉市御成町 18 番 10 号

- 市長

松尾 崇

- 環境管理責任者(環境部長)

能條 裕子

- 職員数

1,344 人(令和 3 年 4 月 1 日現在)

- 施設の規模

延床面積の合計: 約 42 万 m²

- 事業の概要

住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する。

(地方自治法第一条の二より)

- 参考

鎌倉市人口 172,694 人

(令和 3 年 4 月 1 日現在)

令和 3 年度予算

一般会計 613 億円

特別会計 526 億円

総合計 1,139 億円

2 環境方針

鎌倉市は環境方針として、鎌倉市役所が事務事業を行うにあたり配慮すべき基本理念と、重点的に取り組むべき方針を示し、その実現を約束します。

基本理念

鎌倉市役所は、市域の事業所のひとつとして、鎌倉市環境基本条例第3条に掲げる次の基本理念に従って行動します。

- 1 環境の保全は、市民が健康で安全かつ快適な生活を営む上で必要とする良好な環境を確保し、これを将来の世代へ継承していくことを目的として行います。
- 2 環境の保全は、人と自然とが共生し、環境への負荷が少なく持続的に発展することができる社会を構築することを目的として、すべての者の積極的な取り組みによって行います。
- 3 地球環境保全は、人類共通の課題であるとともに、市民の健康で安全かつ快適な生活を将来にわたって確保する上で極めて重要であることから、すべての事業活動及び日常生活において推進します。

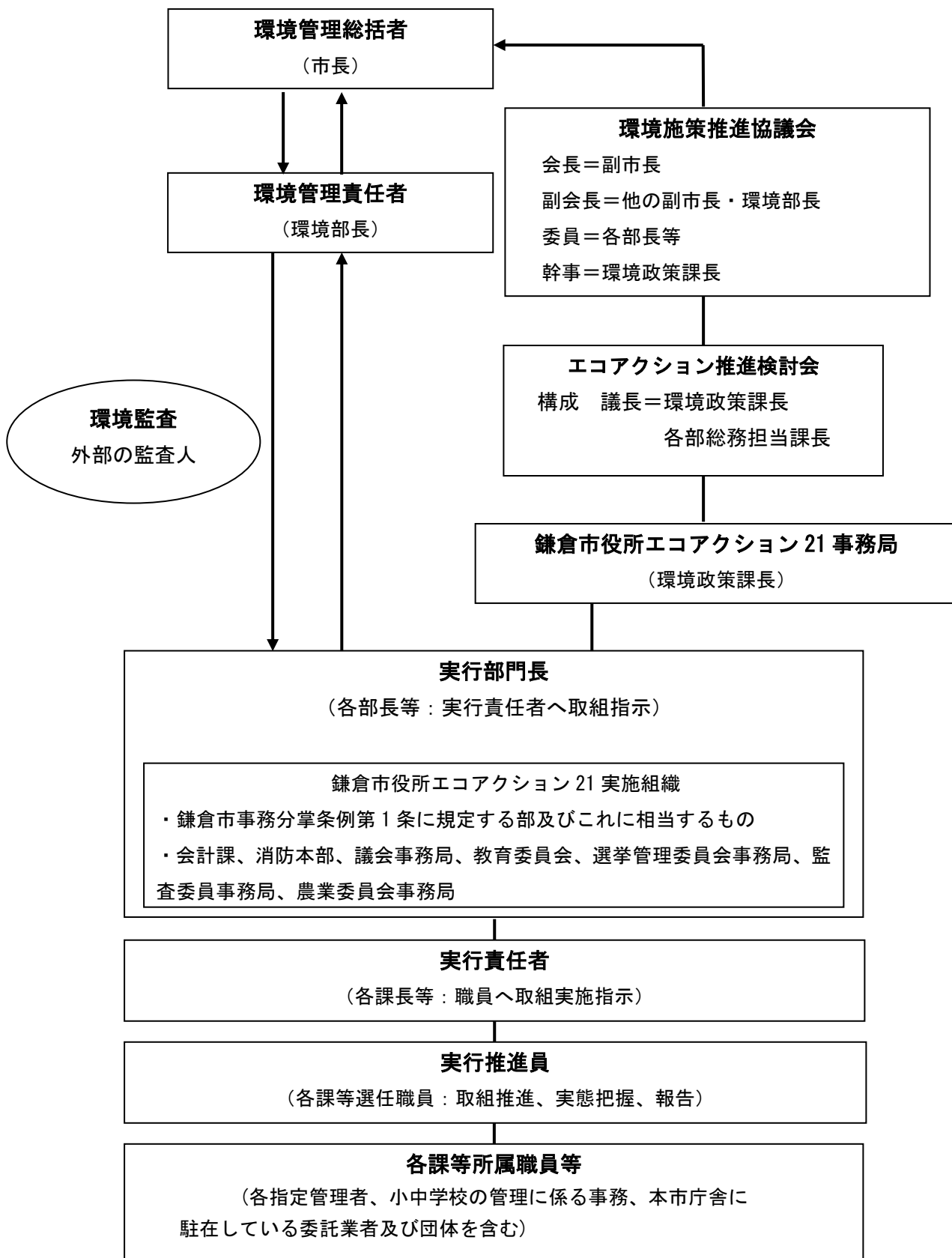
基本方針

鎌倉市役所は、基本理念に従った行動を実現するために、市の事務事業活動によって生ずる環境への影響を把握し、環境負荷の低減のための目標を含む環境行動計画を策定し、組織・職員が一丸となった取り組みを行います。そして、定期的な点検・評価、見直しを行いながら、継続的に改善を図ります。特に次のことに重点的に取り組みます。

- 1 市のすべての施設において省エネルギー・省資源に努めます。
- 2 市が率先して、グリーン購入を推進します。
- 3 循環型社会形成のために、市域における廃棄物の資源化や適正処理を図り、減量に努めます。
- 4 市の公共事業の実施にあたっては、企画から事業完了の各段階に応じた環境配慮を行い、環境負荷の低減に努めます。
- 5 市の事務事業の実施にあたり、環境関連法令を遵守します。
- 6 市職員及び市の業務に従事する者に対し、環境保全意識の高揚を図ります。
- 7 市の環境に関する目標の達成を目指して、施策を推進します。

3 推進体制

鎌倉市役所エコアクション21実施体制



4 環境目標と実績

鎌倉市役所の事務事業に伴う環境負荷を低減するため、本市では令和2年（2020年）3月に「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定し、温室効果ガスの排出量削減に向けて2030年度までにエネルギー起源CO₂排出量の40.2%削減（2013年度比）という目標を設定しています。

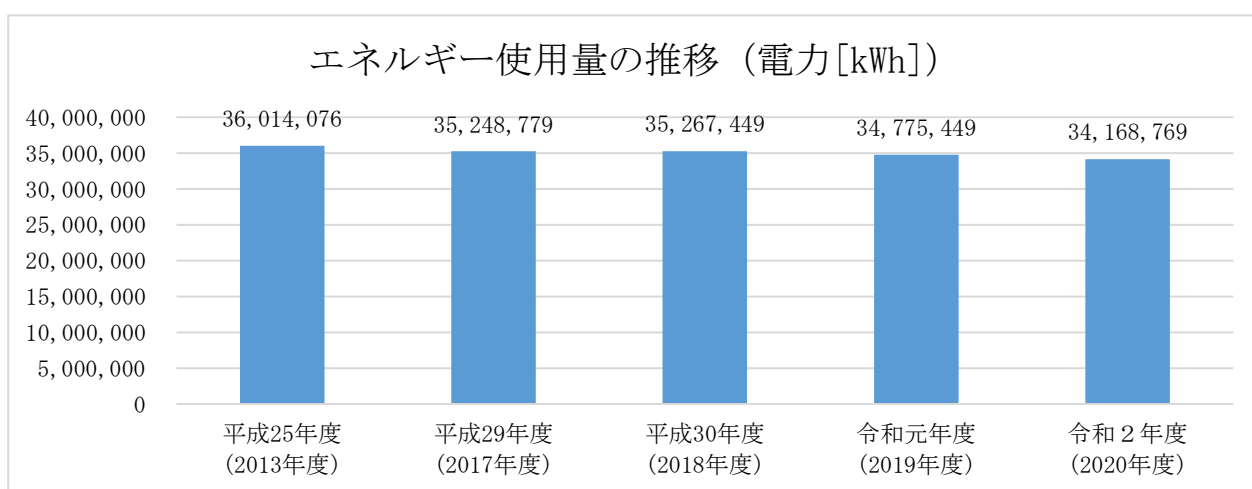
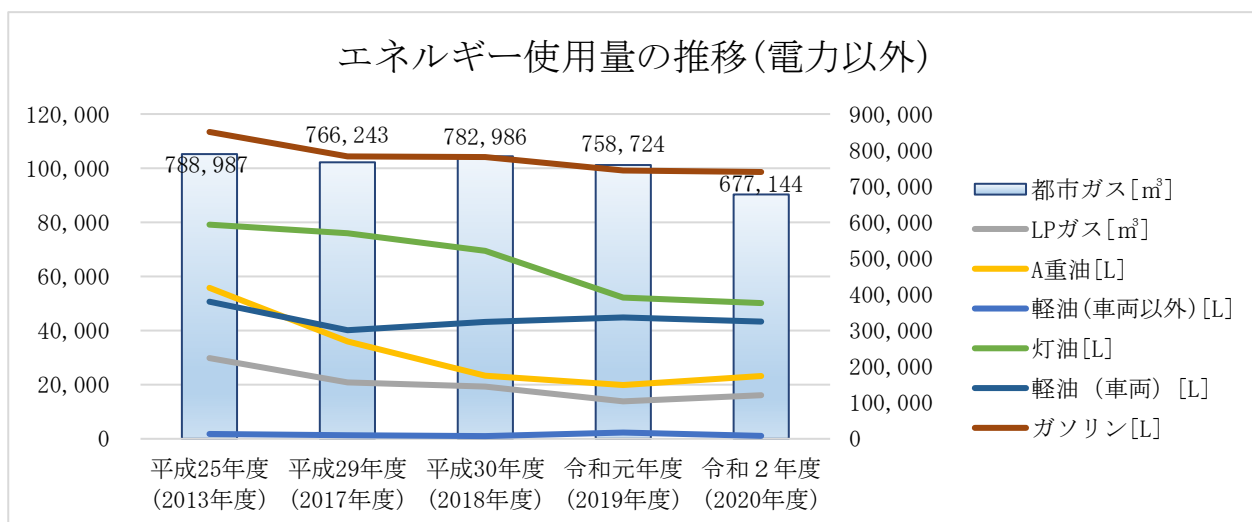
（1）エネルギー使用量

●令和2年度（2020年度）エネルギー使用量

施設分類	電力 [kWh]	都市ガス [m ³]	LPガス[m ³]	A重油 [L]	軽油 (車両以外) [L]	灯油 [L]	軽油 (車両) [L]	ガソリン[L]
①行政施設	1,864,097	153,463	0	0	500	684	0	0
②文化施設	2,556,700	101,917	0	0	0	8,000	0	0
③福祉施設	1,836,478	132,287	7,573	0	0	0	0	0
④スポーツ施設	452,177	0	0	0	0	0	0	0
⑤学校施設	3,827,540	215,613	7,836	0	0	10,445	0	0
⑥消防施設	602,092	21,594	0	0	0	0	0	0
⑦一般廃棄物処理施設	5,670,053	45,195	296	6,000	18	30,640	18	380
⑧公園施設	147,911	6,995	25	0	65	382	0	420
⑨下水道施設	15,431,353	80	343	17,165	424	0	424	0
⑩その他施設	1,780,368	0	1	0	100	0	42,825	97,791
合計	34,168,769	677,144	16,074	23,165	1,107	50,151	43,267	98,591

●エネルギー使用量の推移

エネルギー種別	平成25年度 (2013年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和2年度減少率 (平成25年度比)
電力[kWh]	36,014,076	35,248,779	35,267,449	34,775,449	34,168,769	5.1%
都市ガス[m ³]	788,987	766,243	782,986	758,724	677,144	14.2%
LPガス[m ³]	29,834	20,897	19,307	13,841	16,074	46.1%
A重油[L]	55,786	36,019	23,327	19,876	23,165	58.5%
軽油(車両以外)[L]	1,846	1,306	1,013	2,316	1,107	40.0%
灯油[L]	79,131	75,955	69,483	52,175	50,151	36.6%
軽油(車両)[L]	50,666	40,126	43,158	44,853	43,267	14.6%
ガソリン[L]	113,385	104,334	104,098	99,186	98,591	13.0%



<コメント>

平成25年度(2013年度)(基準年度)と比べて、令和2年度(2020年度)のエネルギー使用量は全体的に低くなりました。

(2) 温室効果ガス排出量(エネルギー起源)

●令和2年度(2020年度)CO₂排出量(施設分類別、エネルギー別) (単位: t-CO₂)

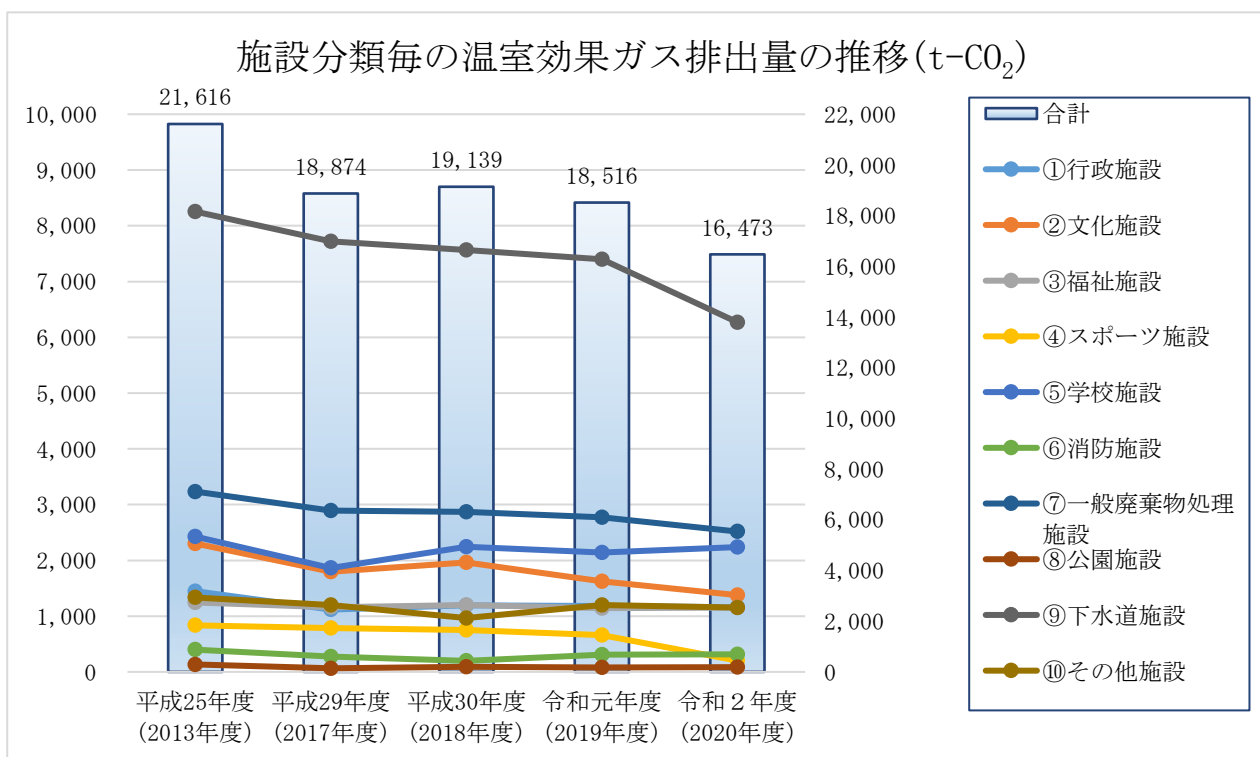
施設分類	電力	都市ガス	LPガス	A重油	軽油(車両以外)	灯油	軽油(車両)	ガソリン	車の走行	合計
①行政施設	832	325	0	0	1	2	0	0	0	1,160
②文化施設	1,141	216	0	0	0	20	0	0	0	1,377
③福祉施設	822	280	50	0	0	0	0	0	0	1,152
④スポーツ施設	202	0	0	0	0	0	0	0	0	202
⑤学校施設	1,704	457	51	0	0	26	0	0	0	2,238
⑥消防施設	270	46	0	0	0	0	0	0	0	316
⑦一般廃棄物処理施設	2,326	96	2	16	0	76	0	1	0	2,517
⑧公園施設	67	15	0	0	0	1	0	1	0	84
⑨下水道施設	6,219	0	2	47	1	0	1	0	0	6,270
⑩その他施設	814	0	0	0	0	0	110	227	5	1,156
小計	14,397	1,435	105	63	3	125	112	229	5	16,473
合計										16,473

端数処理の関係上、小計及び合計が一致しないことがあります。

※車の走行によるCO₂排出量は、走行距離に応じて発生する(燃料の燃焼による)CH₄排出量、N₂O排出量に地球温暖化係数を乗じて算出したものです。

●施設分類毎の温室効果ガス排出量の推移（単位：t-CO₂）

施設分類	平成25年度 (2013年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
①行政施設	1,448	1,118	1,195	1,184	1,160
②文化施設	2,303	1,797	1,962	1,624	1,377
③福祉施設	1,246	1,161	1,202	1,144	1,152
④スポーツ施設	835	785	753	661	202
⑤学校施設	2,427	7,863	2,242	2,141	2,238
⑥消防施設	399	275	198	312	316
⑦一般廃棄物処理施設	3,234	2,895	2,868	2,771	2,517
⑧公園施設	134	65	89	82	84
⑨下水道施設	8,255	7,718	7,564	7,398	6,270
⑩その他施設	1,335	1,197	966	1,198	1,156
合計	21,616	18,874	19,139	18,516	16,473



<コメント>

平成25年度（2013年度）（基準年度）と比べて、令和2年度（2020年度）の温室効果ガス排出量は全体的に低くなりました。スポーツ施設が大きく減少しているのは、こもれび山崎温水プールの管理を民間に移管したためです。また、福祉施設や文化施設において排出量が減少しているのは、新型コロナウイルス感染症に伴う業務縮小の影響と考えられます。

(3) 事務事業編に基づく施設分類別の温室効果ガス削減目標達成状況

(排出量単位：t-CO₂)

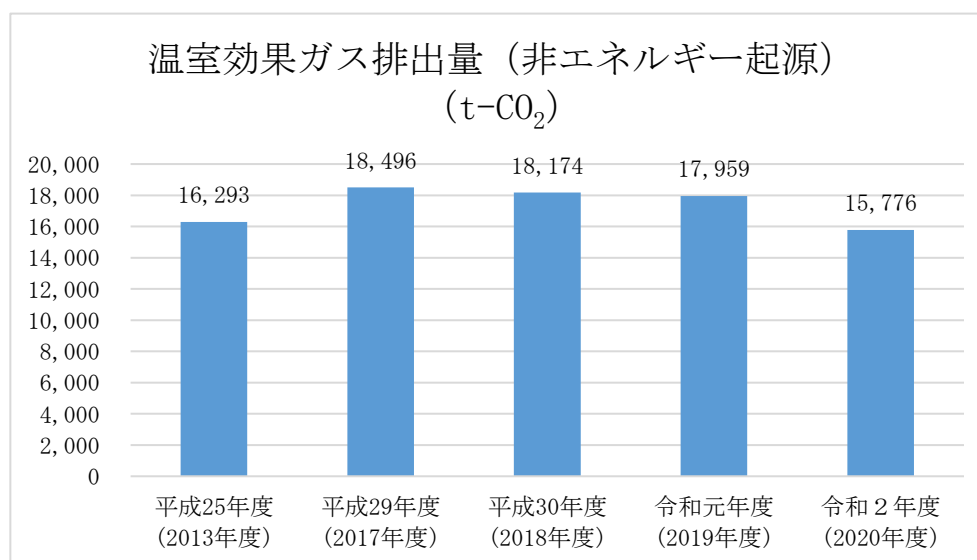
施設分類	2013年度 温室効果ガス 排出量	2030年度 目標排出量	2030年度 目標削減率	2020年度 排出量実績	現在の 削減率	目標への 進捗率	達成/ 未達成
①行政施設	1,448	625	56.8%	1,160	19.9%	35.0%	未達成
②文化施設	2,303	667	71.0%	1,377	40.2%	56.6%	未達成
③福祉施設	1,246	914	26.6%	1,152	7.5%	28.4%	未達成
④スポーツ施設	835	589	29.5%	202	75.8%	257.0%	達成
⑤学校施設	2,427	1,773	26.9%	2,238	7.8%	28.9%	未達成
⑥消防施設	399	256	35.8%	316	20.9%	58.3%	未達成
⑦一般廃棄物処理施設	3,234	1,340	58.6%	2,517	22.2%	37.8%	未達成
⑧公園施設	134	44	67.2%	84	37.3%	55.4%	未達成
⑨下水道施設	8,255	5,778	30.0%	6,270	24.0%	80.1%	未達成
⑩その他施設	1,335	934	30.0%	1,156	13.4%	44.6%	未達成
合計	21,616	12,920	40.2%	16,473	23.8%	59.2%	未達成

<コメント>

平成25年度(2013年度)(基準年度)と比べて、令和2年度(2020年度)の温室効果ガス排出量は全体的に低くなったことから、目標への進捗率は令和元年度(2019年度)の合計35.7%から59.2%に大きく進みました。

(4) 温室効果ガス排出量（非エネルギー起源）

	平成25年度 (2013年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和2年度減少率 (平成25年度比)
①一般廃棄物焼却量合計 (市内焼却分) (t)	30,541	30,852	29,992	29,993	29,994	1.8%
②メタン(CO ₂ 換算) 排出量 [t-CO ₂]	1	1	1	1	1	1.8%
③一酸化二窒素(CO ₂ 換算) 排出量[t-CO ₂]	516	521	507	507	507	1.8%
④廃プラスチック「プラスチック ごみ」焼却に伴うCO ₂ 排出量 [t-CO ₂]	8,258	11,149	10,071	9,988	7,869	4.7%
⑤廃プラスチック「合成繊維」 焼却に伴うCO ₂ 排出量[t-CO ₂]	1,979	2,000	1,944	1,944	1,944	1.8%
⑥一般廃棄物焼却に伴う CO ₂ 排出量	10,754	13,671	12,522	12,439	10,321	4.0%
⑦下水汚泥焼却量(t)	12,456	10,463	13,127	12,445	12,191	2.1%
⑧メタン(CO ₂ 換算) 排出量 [t-CO ₂]	3	3	3	3	3	2.1%
⑨一酸化二窒素(CO ₂ 換算) 排出量[t-CO ₂]	4,046	3,399	4,264	4,042	3,960	2.1%
⑩下水汚泥焼却に伴う CO ₂ 排出量[t]	4,049	3,401	4,267	4,045	3,963	2.1%
⑪下水処理に伴う CO ₂ 排出量[t]	1,490	1,425	1,385	1,474	1,492	-0.2%
⑫非エネルギー起源 CO ₂ 排出量[⑥+⑩+⑪]	16,293	18,496	18,174	17,959	15,776	3.2%



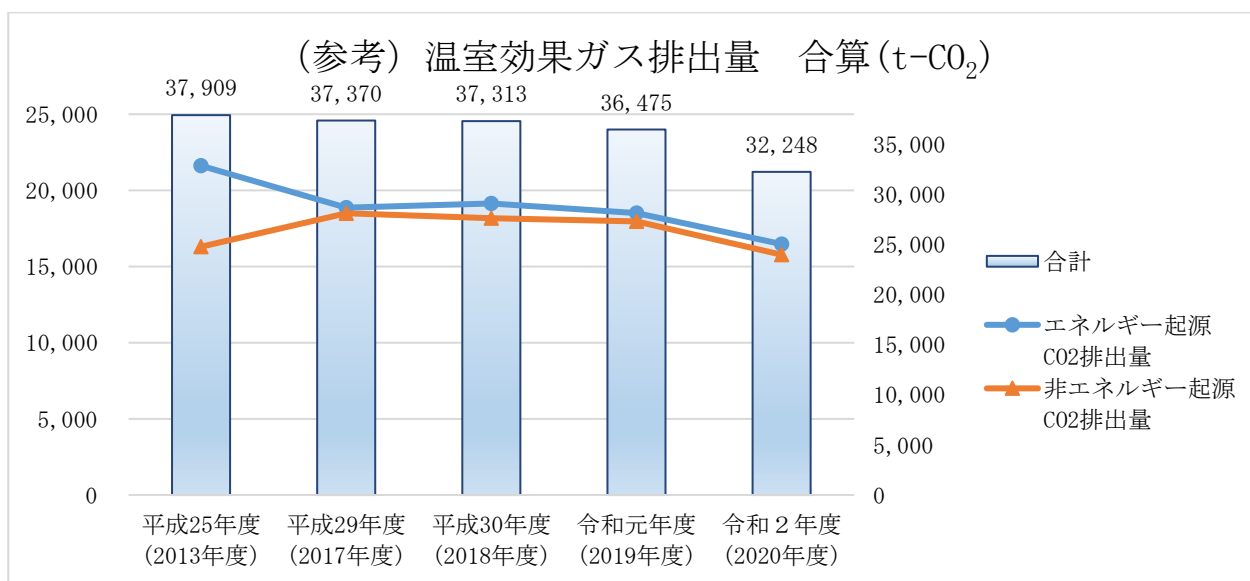
<コメント>

平成25年度（2013年度）（基準年度）と比べて、令和2年度（2020年度）は全体的に低くなりました。

(5) 参考・温室効果ガス排出量（合算）

(単位：t-CO₂)

	平成25年度 (2013年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和2年度減少率 (平成25年度比)
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	21,616	18,874	19,139	18,516	16,473	23.8%
非エネルギー起源 CO ₂ 排出量	16,293	18,496	18,174	17,959	15,776	3.2%
合計	37,909	37,370	37,313	36,475	32,248	14.9%



<コメント>

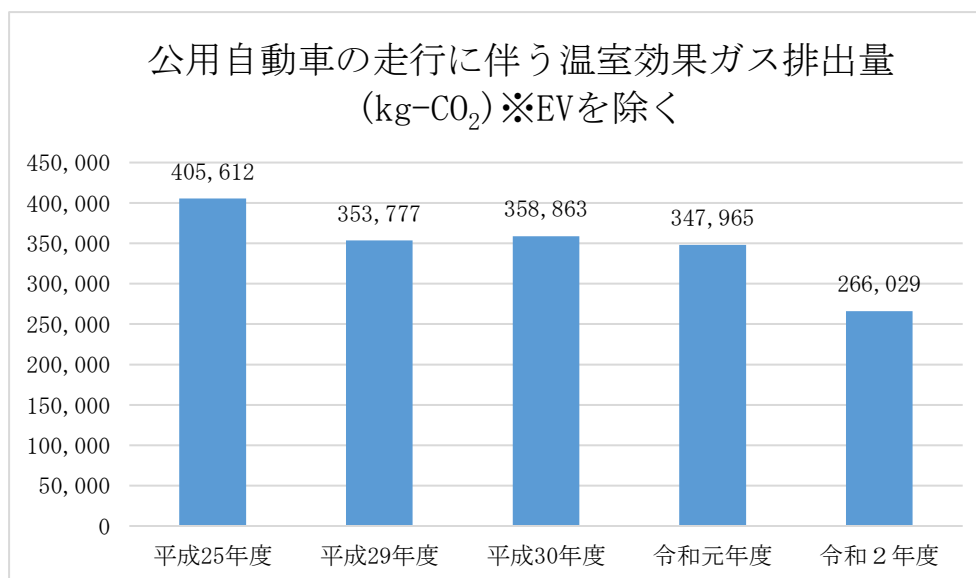
エネルギー起源、非エネルギー起源共に減少したため、合算した温室効果ガスの排出量は大きく減少しました。

(6) その他

●公用自動車の走行に伴う温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）の削減

※燃料・走行・エアコン含む

		平成 25 年度 (参考)	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
ガソリン車両 (ℓ)		112,157	102,930	102,869	97,681	64,609
軽油車両 (ℓ)		50,666	40,126	42,238	42,825	41,426
都市ガス車両(m ³)		632	0	0	0	0
総走行距離 (km)	EV 以外	※未計測	902,508	851,325	823,207	611,705
	EV	※未計測	23,329	23,348	21,709	15,975
車両台数(台)	EV 以外	※未計測	190	190	188	182
	EV	※未計測	6	6	6	7
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)※EVを除く		405,612	355,381	360,553	349,678	266,029



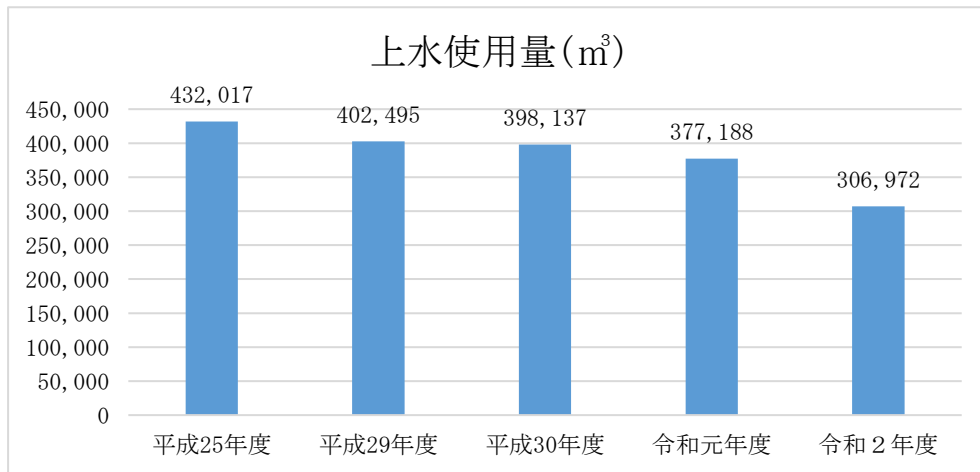
<コメント>

電気自動車の導入等により、温室効果ガスの排出量は低くなっています。令和2年度（2020年度）の排出量が前年度より大きく減っているのは、新型コロナウイルス感染症に伴う業務縮小による走行距離減少の影響と考えられます。

●その他

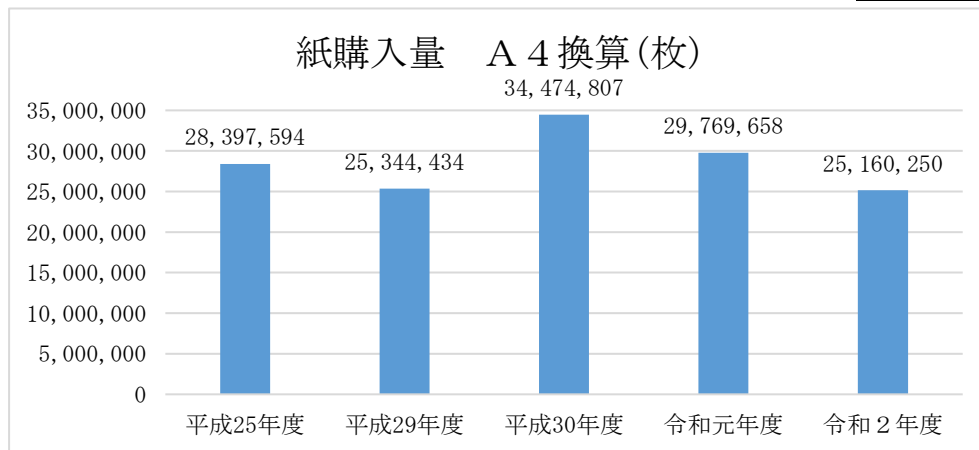
・公共施設における上水使用量の削減

	平成 25 年度 (参考)	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
上水使用量 (m ³)	432,017	402,495	398,137	377,188	306,972



・紙購入量の削減

	平成 25 年度 (参考)	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
A4換算 (枚)	28,397,594	25,344,434	34,474,807	29,769,658	25,160,250



<コメント>

電気使用量や燃料使用量の他にも、鎌倉市役所では職員が上水道使用量や紙の購入量を把握し、削減に取り組むことで、環境負荷の低減を目指してきました。

令和2年度(2020年度)の上水道使用量及び紙購入量が前年度より減っているのは、新型コロナウイルス感染症に伴う業務縮小の影響と考えられます。

5 環境行動

鎌倉市役所では、職員の行動による環境負荷低減をめざし、庁内グループウェアを利用するなど、職員への、より効果的な環境負荷の低減を呼び掛けてまいります。

6 法律の遵守・緊急事態への準備

鎌倉市役所は事業所として環境関連法令を遵守し、環境上の緊急事態への準備体制を整備しています。

また、事業所の施設等により、様々な法令が対象になります。法令により定められた調査分析を実施しており、規制基準を満たしています。

7 研修

鎌倉市では、環境保全に関する職員の資質を高めるため、新採用職員を対象に研修会を実施しています。今後も環境行動についての理解を高め、市役所全体で環境マネジメントを徹底していくために、研修内容を充実させていきます。

8 まとめ

令和2年度（2020年度）の市役所の業務全体の温室効果ガス排出量は、基準年である平成25年度（2013年度）に比べ14.9%の削減となりました。電気使用量及び燃料使用量が減少したことによって温室効果ガス排出量が削減されたことが目標値の達成に寄与していると考えられます。

また、令和2年度（2020年度）は新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の閉鎖や営業形態の変更が多くあったことも温室効果ガス排出量の削減に影響していると考えられます。

温室効果ガスの削減を進めるためには、ハード面の省エネやソフト面である職員がより環境負荷に配慮して行動することが必要であり、そのような行動を促すよう周知を行い全庁的に取り組んでいきます。

今後は、鎌倉市役所エコアクション21の既存の体制を活用しつつ、より一層削減に向けて改めて体制作りをすすめ、温室効果ガス排出量の削減に努めていきます。